

https://bonafidr.com/2020/11/22/ポルトガルの裁判所が、PCR検査は信用できず強制隔離は違法という判決を下す

BonaFidr
オールドメディアが伝えない海外のニュース

政治 経済 社会 司法 言論 IT コラム 支援のお願い

Home / 2020 / 11月 / 22 /

IT 社会 言論

ポルトガルの裁判所が、PCR検査は信用できず強制隔離は違法という判決を下す

Portuguese Court Rules PCR Tests “Unreliable” & Quarantines “Unlawful”

Important legal decision faces total media blackout in Western world

Nov 20, 2020 460

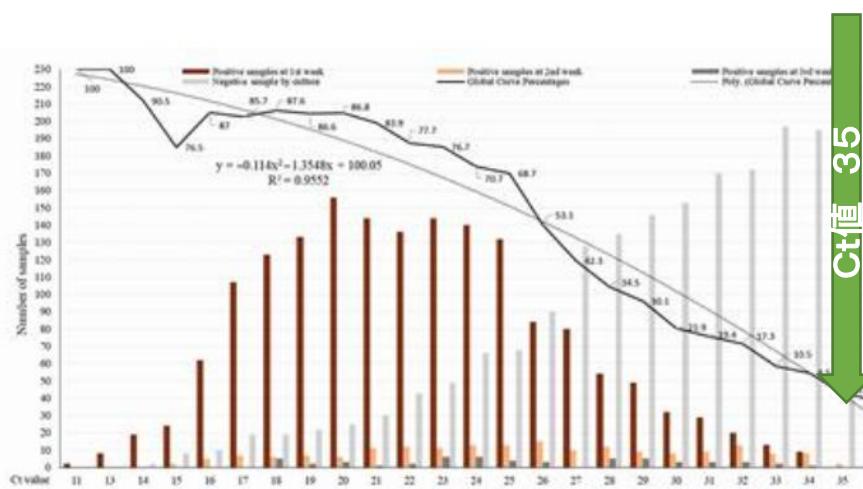
Portuguese Court Rules PCR Tests “Unreliable” & Quarantines “Unlawful”

Important legal decision faces total media blackout in Western world



参議院議員 やながせ裕文氏 YouTube 国会中継動画
地方創生及び消費者問題に関する特別委員会質問
令和2年12月2日

ポルトガルの裁判で引用されたJaafar et al. 論文



サイクル数35以上は精度は3%。 オックスフォードの論文のグラフにはサイクル数37までしか記載がない。
サイクル数38以上はグラフにのらないレベル。

「やなチャン」で検索！ 10:08～2分間でいいので今すぐスマホのユーチューブアプリでご自身で見て、聞いてください！！！

10:08～ 厚生労働省回答

佐原総括審議官) ご指摘の通り、PCR検査の陽性判定は、必ずしもウイルスの感染性を直接証明するものではありません。

やながせ議員) 確認ですが、PCR検査で陽性判定されたからと言って、その人に感染力があるとは言えない、ということでおろしいでしょうか？

佐原総括審議官) PCR検査判定イコール、ウイルスの感染性の証明ということではない、という事です。

やながせ議員) これ、極めて由々しき問題だと思いますよ。

https://academic.oup.com/cid/advance-article/doi/10.1093/cid/ciaa1491/5912603

OXFORD ACADEMIC

Clinical Infectious Diseases

Issues More Content ▾ Publish ▾ Purchase Advertise ▾ About ▾

Article Navigation

CORRECTED PROOF

Correlation Between 3790 Quantitative Polymerase Chain Reaction–Positives Samples and Positive Cell Cultures, Including 1941 Severe Acute Respiratory Syndrome Coronavirus 2 Isolates

Rita Jaafar, Sarah Aherfi, Nathalie Wurtz, Clio Grimaldier, Thuan Van Hoang, Philippe Colson, Didier Raoult, Bernard La Scola

Clinical Infectious Diseases, ciaa1491, <https://doi.org/10.1093/cid/ciaa1491>

〈新型コロナ〉県、死者65人に修正 感染者は死因問わず集計へ

2020年6月20日 07時28分

県は十九日、新型コロナウイルス感染症の死亡者数に、十三人を新たに計上すると発表した。感染者でも医師が死因をコロナ以外だと判断した場合は「退院」に分類してきたが、厚生労働省から死因を問わず報告するよう求める通知があった。これにより、県は同日現在の死亡者数を五十二人から六十五人に修正した。

十三人の死因は、がんや循環器系の病気など。四月には、集団感染が発生した所沢ロイヤル病院（所沢市）が、コロナに感染していた入院患者一人の死亡をホームページで公表したが、県は直接の死因が特定できていないとし、死亡者に含めないこともあった。

鹿児島 新型コロナ感染の90代女性が死亡 県内では初の死者

NHK

2020年7月28日 21時27分 新型コロナウイルス

POR陽性となり

鹿児島市は、新型コロナウイルスに感染し医療機関で治療を受けていた市内の90代女性が28日までに死亡したと発表しました。

市によりますと、女性には基礎疾患があったということで、死因は新型コロナウイルスの感染とは関係ないということです。

ただ、市は、厚生労働省の基準に従い、新型コロナウイルス関連の死者として国に報告したということです。

SARS-CoV2の存在を証明するエビデンスの情報開示請求から1ヶ月たった厚生労働省の回答 ↓

厚生労働省発健1120第3号

令和2年11月20日

開示決定等の期限の延長について（通知）

寺尾 介伸 様



厚生労働大臣 田村 憲久

令和2年10月22日付け（同日受付）の行政文書の開示請求（開第2928号）については、下記のとおり、行政機関の保有する情報の公開に関する法律（平成11年法律第42号）第10条第2項の規定に基づき、開示決定等の期限を延長することとしましたので通知します。

記

- 1 開示請求のあった行政文書の名称
新型コロナウイルスが存在するということを証明するエビデンスの要求
- 2 延長後の期間
60日間（令和2年12月21日まで）
- 3 延長理由
上記1の行政文書については、新型コロナウイルス対応等、審査と並行して処理すべき他の事務が著しく多忙であり、開示請求対象行政文書の特定及び不開示情報該当性の審査に時間を要するため。
- 4 担当課等
厚生労働省健康局結核感染症課 TEL:03-5253-1111（内線2097）

新型コロナウイルス感染症とは

ウイルス性の風邪の一種です。発熱やのどの痛み、咳が長引くこと（1週間前後）が多く、強いだるさ（倦怠感）を訴える方が多いことが特徴です。感染から発症までの潜伏期間は1日から12.5日（多くは5日から6日）といわれています。

【ムーンショット目標1】

「2050年までに、人が身体、脳、空間、時間の制約から解放された社会を実現」
研究開発構想

令和2年2月
文部科学省

1. ムーンショット目標

文部科学省は、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）を研究推進法人として、ムーンショット目標（令和2年1月23日総合科学技術・イノベーション会議決定）のうち、以下の目標の達成に向けて研究開発に取り組む。

＜ムーンショット目標＞

「2050年までに、人が身体、脳、空間、時間の制約から解放された社会を実現」

○誰もが多様な社会活動に参画できるサイバネティック・アバター¹基盤

- 2050年までに、複数の人が遠隔操作する多数のアバターとロボットを組み合わせることによって、大規模で複雑なタスクを実行するための技術を開発し、その運用等に必要な基盤を構築する。
- 2030年までに、1つのタスクに対して、1人で10体以上のアバターを、アバター1体の場合と同等の速度、精度で操作できる技術を開発し、その運用等に必要な基盤を構築する。

○サイバネティック・アバター生活

- 2050年までに、望む人は誰でも身体的能力、認知能力及び知覚能力をトップレベルまで拡張できる技術を開発し、社会通念を踏まえた新しい生活様式を普及させる。
- 2030年までに、望む人は誰でも特定のタスクに対して、身体的能力、認知能力及び知覚能力を拡張できる技術を開発し、社会通念を踏まえた新しい生活様式を提案する。

← 厚生労働省 新型コロナウイルスを防ぐには

陳情第8号、第9号 資料
3/3

内閣府 ムーンショット目標

「2050年までに、人が身体、脳、空間、時間の制約から解放された社会を実現」
これを受け入れられますか？



ムーンショット目標1 2050年までに、人が身体、脳、空間、時間の制約から解放された社会を実現

ターゲット

誰もが多様な社会活動に参画できるサイバネティック・アバター 基盤

- 2050年までに、複数の人が遠隔操作する多数のアバターとロボットを組み合わせることによって、大規模で複雑なタスクを実行するための技術を開発し、その運用等に必要な基盤を構築する。
- 2030年までに、1つのタスクに対して、1人で10体以上のアバターを、アバター1体の場合と同等の速度、精度で操作できる技術を開発し、その運用等に必要な基盤を構築する。

注：サイバネティック・アバターは、身代わりとしてのロボットや3D映像等を示すアバターに加えて、人の身体的能力、認知能力及び知覚能力を拡張するICT技術やロボット技術を含む概念。Society 5.0時代のサイバー・フィジカル空間で自由自在に活躍するものを目指している。

サイバネティック・アバター生活

- 2050年までに、望む人は誰でも身体的能力、認知能力及び知覚能力をトップレベルまで拡張できる技術を開発し、社会通念を踏まえた新しい生活様式を普及させる。
- 2030年までに、望む人は誰でも特定のタスクに対して、身体的能力、認知能力及び知覚能力を強化できる技術を開発し、社会通念を踏まえた新しい生活様式を提案する。